

机上訓練について【東京都】

導入・本動画のテーマ (0:00頃～)

- 本動画のテーマ: 障害者施設等におけるBCP(事業継続計画)の「机上訓練」について解説する。
-

1. 訓練の2つの大きな分類: 机上訓練と実動訓練(パート2の振り返り) (0:10頃～)

- 訓練は、会議室などで行う「机上訓練」と、実地で行う「実動訓練」に大きく分けられる。
- 実動訓練の特徴:
 - 人や物を動かして実施する訓練。現場で実際に練習を行い、技術の習得・習熟を図るもの。
 - 机上では分かりづらい動線の確認や、資機材の稼働方法を確認することに向いている。
- 机上訓練の特徴 (0:45頃～):
 - シナリオや状況設定を用意し、それらの状況下でどのように行動するか、BCPやマニュアルを実践できるかのシミュレーションなどを行う。
 - 参加者一人ひとりが考えながら取り組むため、判断力や意思決定能力の向上が見込める。
 - 用意するものが少ないため、簡便に実施可能であり、設定を変えることで様々な状況に備える力を培うことができる点が特徴。

【ポイント】

- 机上訓練は、実際の行動を伴わないものの、思考プロセスを重視し、様々な状況への対応力や判断力を養うのに適している。
- 実動訓練と机上訓練は、それぞれ目的と特徴が異なるため、バランス良く組み合わせることが効果的なBCP運用に繋がる。

【用語解説】

- **BCP (Business Continuity Plan):** 事業継続計画。
 - **机上訓練:** 図面やマニュアル、シナリオなどを使用し、災害発生時や緊急事態における対応手順、役割分担、意思決定プロセスなどを模擬的にシミュレーションする訓練。
 - **実動訓練:** 実際に避難行動をとったり、対策本部を立ち上げたり、資機材を操作したりするなど、具体的な行動を伴う訓練。
-

2. 机上訓練の具体例 (1:15頃～)

- 読み合わせ訓練:
 - 策定したBCPに、見落としや不備がないか、複数人で内容を読み合わせながら確認する。

- 準備が少なく済み、比較的簡便に実施できる訓練。
- BCPの内容について、職員間で共通認識を持たせる教育効果も期待できる。
- ポイント: 単に文字を追うのではなく、その状況を頭の中で具体的にイメージしながら行うことが重要。
- シミュレーション訓練 (1:50頃～):
 - 設定したシチュエーションのもとで、進行役であるファシリテーターから提示される課題について、どのように対処するのか参加者が検討する。
 - 参加者の習熟度に応じて課題の難易度を変更することで、幅広く実施可能。
 - シナリオのもとでどのように対応するかを想像し検討することで、災害・感染症対策の重要性やBCPの必要性の理解、現状の事業所の課題点の洗い出しにつながる。
 - ポイント: ライフラインの使用可否や社会の状況等を細かく設定すると、参加者が状況をイメージしやすくなる。
- ロールプレイング訓練 (2:20頃～):
 - シミュレーション訓練を発展させたもので、状況や課題をリアルタイムで付与し、参加者は状況を予測しながら判断・意思決定を行っていく。
 - より実践に近い形での対応力向上が期待できるが、詳細なシナリオの準備や運営のノウハウが必要になる訓練。
- 机上訓練に共通の考え方:
 - 様々な実施方法があるが、BCPの検証や、参加者一人ひとりが考えて対応力の向上を目指すという点は、机上訓練に共通の考え方。

【ポイント】

- 机上訓練には、BCPの理解度向上を目的とした「読み合わせ」から、より実践的な判断力を養う「シミュレーション」「ロールプレイング」まで、様々なレベルと手法がある。
- 事業所の状況や訓練の目的に合わせて、適切な手法を選択する。

【用語解説】

- ファシリテーター: 会議や研修などで、参加者の発言を促し、議論を整理し、スムーズな進行を助ける役割の人。
- ロールプレイング訓練: 現実の状況を模擬的に設定し、参加者がそれぞれの役割を演じることで、対応方法やコミュニケーションスキルを実践的に学ぶ訓練方法。

3. BCP机上訓練実施上の重要なポイント(運営基準より) (3:00頃～)

- (運営基準にも記載のある通り)自然災害や感染症が発生した場合において、迅速に行動できるよう、BCPに基づいて以下の内容を行うことが重要。
 - 事業所内の役割分担の確認。
 - 自然災害や感染症が発生した場合に実践するケアの演習など。
- これらはあくまでも一例であり、机上訓練の実施方法は様々なので、負担感や実施規模なども勘案し、事業所の実情に沿った実施方法を検討する。

【ポイント】

- 机上訓練であっても、BCPに定められた役割分担や具体的な対応手順を確認・実践する要素を取り入れることが求められる。
-

4. シミュレーション訓練の具体的な実施例紹介(地震想定) (3:30頃～)

4-1. 訓練実施のステップと留意点 (3:40頃～)

- ① 目的の明確化と事前準備:
 - まず、その訓練の目的を明確にし、それに応じたシチュエーションや課題を設定する。
 - 事前準備として必要なもの: 参加者の把握、グループ分けの検討、資料(シナリオ、BCP抜粋、役割カードなど)、筆記用具、取りまとめ用の用紙、ホワイトボードの準備、会場のセッティングなど。
- ② 実施時の留意点:
 - 訓練の目的を参加者に伝え、一人ひとりが意識して取り組めるようにする。
 - 参加者全員が自由に意見できる雰囲気を作ることが重要なポイント。
- ③ 振り返りと共有、BCPへの反映:
 - 最後に必ず振り返りと共有の時間を設け、参加者の学びにつなげる。
 - 各人が気づいたことを参加者全員に共有することで、一人ひとりの気づきを事業所全体の財産とすることができる。
 - また、訓練によって洗い出された課題をBCPに反映し、修正する。

【ポイント】

- 効果的な机上訓練のためには、明確な目的設定、十分な事前準備、参加しやすい雰囲気づくり、そして訓練後の確実な振り返りと改善活動が不可欠。
-

4-2. シミュレーション訓練の具体的な進め方(デモンストレーション) (5:00頃～)

- 訓練開始の挨拶と目的説明 (5:05頃～):
 - (進行役より)「本日は自然災害BCPの机上訓練を実施します。BCPに基づいて災害時の対応をシミュレーションする訓練です」
 - 主な目的(3点):
 1. BCPに基づいて実際に職員が行動できるか検証すること。
 2. BCPの内容を皆さんに習得していただくこと。
 3. 災害時の対応力や判断力を培っていただくこと。
 - 付随する目的: BCPの点検も兼ねているので、訓練をやっていく中で気づいた点や、「ここは直した方がいいのでは」という点があればメモしていただき、訓練終了時に提出してください。
- 訓練のやり方説明 (5:40頃～):
 - シチュエーションや課題について、私(進行役)から説明しますので、災害時にどのようなことが起こり、どのように対処しなければならないのかということを想像しながら、班ごと(グループワーク形式)で討議してください。
 - 手元に設定資料やメモ用紙を配布しておりますので、そちらも使いながらグループワークを行ってください。

- グループワーク中の心がけ: 役職や経験年数に関わらず、全員が積極的に考えて発言していただけますと助かります。また、ワーク時は班のメンバーとのみ意見交換し、他の班の人とは話さないよう気をつけてください(発表や振り返りの際に様々な意見が出るのが重要であるため)。何か質問をしたい時は、私(進行役)までお願いします。
- 状況設定の提示 (7:00頃～):
 - (進行役より)「それでは本日行う机上訓練の設定をお伝えします。今回は地震発生時の初動対応について検討していただきます。」
 - 状況設定の例: (スライドで提示)ここでは、地震発生直後の初動対応の内容を検討することとなっている。このように、周囲の状況をできるだけ具体的にイメージできるようにシチュエーションを提示する。
 - 今回の検討の基盤: BCPに定める災害対策本部の役割に基づいて行動内容を検討してもらう。
 - 役割分担の前提: BCPには対策本部長の他、安否確認班、救出救護班、サービス継続班があり、本日は各グループにそれぞれの班の担当者が1人ずついるものと想定する。それぞれ自分の班の役割に基づいて対応を検討する。
- 役割の割り当て (8:00頃～):
 - (進行役より)「席に座っていて私に一番近い砂田さんが、対策本部長役として対応を検討していただき、グループワーク中の進行もお願いいたします。そして、私から一番遠くに座っている太田さんには、書記をお願いいたします。書記の方は、議論の内容を記録してまとめてください。」
- グループワーク開始 (8:30頃～):
 - (進行役より)「それでは10分間、グループワークの方、お願いいたします。」
- グループワーク中のやり取り(デモンストレーションの様子)(8:40頃～):
 - 各班(救出救護班、安否確認班など)から、自身の役割に基づいた行動予定や意見が述べられる。
 - その中で疑問点(例:「地震発生後の建物設備の安全点検は誰がやることになっていましたっけ? BCPには記載がないようですが...」)や、新たな提案(例:「安否確認と同時にフロアごとの施設設備の点検もできないでしょうか?」)が出てくる。
 - 対策本部長役が情報を集約し、指示を出す。
 - サービス継続班が、他の班と連携して備蓄の手配や業務支援を行うことを確認する。
 - さらに他の参加者から、検討漏れの事項(例:「当日出勤していない職員の安否確認の話が出ていなかったと思います」)が指摘される。
- グループワーク終了と発表指示 (11:45頃～):
 - (進行役より)「はい、グループワークを終了してください。それでは各班で出た意見を発表していただこうと思います。まずは砂田さん(対策本部長役)、発表をお願いします。」
- 次のワークへの移行(課題カードを用いた個人・グループワーク) (12:20頃～):
 - (進行役より)「では続いてのワークに移ります。先ほどのシチュエーションの続きで、具体的な問題が発生した際にどのように対処するのかを、各役割に基づいて判断していただきます。」
 - 進め方:
 1. 役割ごとに「課題カード」を配布する。
 2. そこに書いてある課題にどう対処するのか、時間を区切るので、まず「一人で」考えてください。
 3. 次に、対策本部長役に判断を仰いだり、報告したりしてください。

- 対策本部長役への指示: 全員分の課題カードを渡し、どのような質問や報告が上がってくるのかをあらかじめ目を通して予想しておく。
- 課題への取り組み方: 「誰が、誰に、いつ、どのように」ということを意識しながら考える。
- (課題カード配布)
- 個人ワーク開始 (13:25頃～):
 - (進行役より)「それでは個人ワークで、課題カードの内容を検討してください。」
- 個人ワーク終了、グループワーク(対策本部長への報告・確認)開始 (13:50頃～):
 - (進行役より)「それでは個人ワークを終了してください。これからグループワークを始めますので、そこで対策本部長役に確認と報告をお願いします。この際、他の役割の方に確認したいことがあれば、確認をしながらグループワーク進めていただければと思います。それではグループワークを開始してください。」
- グループワーク中の報告・指示(デモンストレーションの様子) (14:20頃～):
 - サービス継続班から「断水のためトイレが使えない。ポータブルトイレを設置し、通常トイレに使用不可の貼り紙をしたい」との報告と対策案。対策本部長が承認。
 - さらに汚物廃棄場所について質問があり、対策本部長が「人があまり通らない2階の倉庫を廃棄場所にする」と指示。
 - 救出救護班からの報告。
- 訓練終了と振り返りの指示 (15:30頃～):
 - (進行役より)「以上で本日の自然災害BCP机上訓練を終わりますので、最後にグループで本日の訓練を振り返り、BCPの記載通り行動できたか、適切に災害に対応できたか、もっとスムーズに行動するにはどうすればいいか、またBCPに足りない点や不備がなかったかなどを振り返っていただき、お手元にお配りしておりますこちらのシートに記入していただいて終了してください。」
- 訓練終了後の対応 (16:00頃～):
 - 訓練終了時には振り返りの時間を設けたり、アンケートを実施するなどして、気づきを共有し意見を吸い上げる取り組みをする。
 - また、集約した意見や洗い出された課題をBCPに反映させる。

【ポイント】

- シミュレーション訓練は、具体的な状況設定と役割分担のもと、参加者間の活発な意見交換を促し、BCPの課題発見と改善に繋げる。
- 個人ワークとグループワークを組み合わせることで、個々の思考力とチーム対応力の両方を高めることができる。
- 進行役(ファシリテーター)の適切な誘導と、訓練後の丁寧な振り返りが成功の鍵。

5. サービス種別ごとの訓練テーマ設定例 (16:30頃～)

- (最後に、サービス種別ごとの訓練テーマの設定例を紹介)
- 入所系: 自然災害発生時のライフライン対策、感染症発生時に職員が不足した場合の対応などがテーマとして考えられる。
- 通所系: 自然災害発生時の利用者の引き渡し、感染症発生時の情報共有などがテーマとして考えられる。

- 訪問系: 自然災害発生時の安否確認、感染症発生時の情報共有などがテーマとして考えられる。
- 注意点: これらはあくまでも一例なので、自事業所が重点的に確認や対策をすべき内容を精査し、テーマを設定するようにする。

【ポイント】

- 訓練テーマは、自事業所のサービス特性や地域のリスク、過去の課題などを踏まえて、具体的かつ実践的なものを設定する。
-

6. 本動画のまとめとシリーズ全体の結び (17:35頃～)

- 本動画のまとめ:
 - 机上訓練について解説した。
 - 特徴: 参加者それぞれが考えながら取り組むため、判断力や意思決定能力の向上が見込めることや、用意するものが少ないため簡便に実施可能であり、設定を変えることで様々な状況に備える力を培うことができるという点が特徴であり、多種多様な手法がある。
 - シミュレーション訓練を実施する際: シチュエーションと課題を設定し、コーディネーター(進行役)が説明を行いながら実施することとなる。
 - 終了時: 振り返りの時間を設けたり、アンケートを実施するなどして、気づきを共有し、意見を吸い上げる取り組みをしましょう。また、集約した意見や洗い出された課題をBCPに反映させましょう。
- 東京都障害者施設等**BCP**訓練支援動画シリーズ全体の結び (18:10頃～):
 - 本動画シリーズはこれで終了。
 - **BCP**訓練の2つの大きな目的:
 1. BCPの内容の職員への周知。
 2. BCPの改善。
 - 最後に: 訓練を実施する際には、是非今回の動画(パート1～3)を参考としながら、BCPの策定・改善と一体的に取り組んでください。

【ポイント】

- 机上訓練は、BCPの実効性を高め、職員の対応能力を向上させるための有効な手段。
- BCPは、訓練を通じた継続的な見直しと改善(PDCAサイクル)によって、より実践的なものへと進化していく。